

# 目黒女性団体連絡会国内研修 2019

## 『 宝塚市 』



目黒女性団体連絡会

国内研修 2019 宝塚市

資料提供

宝塚市総務部 人権平和室

人権男女共同参画課

## はじめに

目黒女性団体連絡会がその活動をスタートして（当初名 婦人問題懇話会）40周年となった今年の国内研修は、特に女性が少ないと言われている政治の分野でながく活躍されている中川智子市長の宝塚市での研修としました。

男女・共同参画の取組み、性的マイノリティに寄り添うまちづくりの取組み、働き方改革の進捗状況「男女平等・共同参画社会」を推進する拠点施設の活動など、女性首長のもと、女性ならではの施策に接しられることにわくわくする想いでこの研修に臨みました。

## 2019年度国内研修 目黒女性団体連絡会参加者

中島 みち子	団長	新日本婦人の会目黒支部
五十嵐貴志子		目黒区女性学習グループ連絡会
郡 玲子		目黒母親連絡会 目黒女性団体連絡会副代表
斉藤 眞澄		目黒区男女平等・共同参画センター運営委員会
鷲尾 不二子		新日本婦人の会目黒支部

♥男女共同参画センター（ソリオ2）は、駅前のビル！



## 目 次

はじめに	1
日程表	3
宝塚男女共同参画センター連絡協議会との交流会	4
手塚治虫記念館を訪ねて	6
中川市長とお会いして	7
働き方改革について	8
宝塚市の男女共同参画施策・マイノリティの取組について	11
宝塚市立男女共同参画センター・エルの取組について	13
宝塚市での研修を終えて	16
美しい自然に囲まれた宝塚市は、 人への優しさを願う街でもありました	17
男女平等・共同参画の貴重な実践にふれて	18
リボンの騎士のふるさとを訪ねて	19
国内研修に参加して	20

## 目黒女性団体連絡会 日程表

目黒女性団体連絡会 日程表		
	1日目 10月15日(火)	2日目 10月16日(水)
9:00		9:00~10:00
		働き方改革について (給与労務課)
		【本庁舎】
		休憩
		10:15~12:00
		性的マイノリティの取組について 男女共同参画施策について (人権男女共同参画課)
	【11:31 宝塚着】	【本庁舎】
	移動	
	昼食・休憩	
		移動 昼食・休憩
13:00	13:00~14:30	
	宝塚男女共同参画センター連絡 協議会との交流	
		13:30~15:00
	【男女共同参画センター・エル】	男女共同参画センターの取組について (男女共同参画センター指定管理者)
14:30	移動	
	手塚治虫記念館 見学	【男女共同参画センター・エル】
	移動	
16:00	16:00~16:30	
	市長 表敬訪問	
	【本庁舎】	

## 宝塚男女共同参画センター連絡協議会との交流会

五十嵐 貴志子

10月15日(火) 男女共同参画センター・エル 学習交流室

連絡協議会の参加者 会長：高橋章子、副会長：中山繁子、理事：柿原章子

理事：梅沢光代、理事：高原宏子

交流会はセンター所長が挨拶されて退席後、各所属団体の活動を含めた双方の自己紹介で始まりました。

センター連絡協議会の設立は直営時代の宝塚市女性会議に始まりますが、2002年(平成14)、男女共同参画推進条例の施行を機に、センター利用登録のグループからなるセンター連絡協議会として再出発しました。連絡協議会に所属するのは24グループです。利用グループは全部で58あるのですが、それぞれの活動で精いっぱい連絡会活動に参加する余裕がないのが実情ではということでした。

連絡協議会の目的は、グループ相互の交流と情報交換、学習、男女共同参画施策についての提言などです。活動は調査研究、講座の開催、センター事業への参画、「連絡会だより」の年5回の発行などがあります。会の運営は1グループ年500円の会費とバザーの収益金で賄い、助成金はないということでした。事務所はセンター内に置いています。

大きな活動の一つに夏に開催する「エル・フェスタ」があります。センター・エルを会場に共同参画センターと共同主催の形で行われます。全世代向けのイベントで、センターの周知や利用登録グループの活動の支援とグループ間のネットワーク作りなどを目的としています。お祭りのようなものでセンターの周知には効果が絶大です。学習色をもっと出したいと願っているそうですがなかなか難しい状況があるということでした。

もう一つは、冬に開催される「センターフェスティバル」です。開催の趣旨はセンターの周知や利用登録グループの活動の成果の発表や市民の企画運営の実践の場の提供などで、連絡協議会は実行委員として参加します。今年は講演会「今も残る家制度下のしきたり・慣習を考える～次世代の女性たちに何をのこせるのか？」を企画開催します。

以上の二つの大きな活動の他に、市の参画課やセンター、市議との懇談を行っています。数は少ないですが審議会委員を推薦し、また女性議員を、連絡協議会の活動やさまざまな市民活動との連携の力で送り出しました。このような取り組みは政治に関わってこそという思いから段階を踏みながら行なっていますが、学習の後押しが力になると考えているということでした。

女性市長であることの意義は大きいそうです。例えば母親大会開催時には大きな影響がありました。憲法や平和の問題、ジェンダーなどは県レベルではときに問題になるこ

とがあるのですが、中川市長からは平和を守る、男女平等という視点でしっかり支援を受けているということでした。

学習活動だけではなく、連絡会の親睦をかねて去年は遠足や味噌作りなどを楽しみました。

若い世代との交流はなかなか進まないのですが、辛抱強く若い世代の関心の在りかを探っていく努力が必要と考えています。高齢化の課題もあって、しんどいこともありますが、主催者自らが楽しもう！ の気持ちで活動していると結ばれました。





## 手塚治虫記念館を訪ねて

中島 みち子

短時間でしたが頑張って見学して、手塚ワールドを堪能しました。

この記念館で一番驚いたのは、手塚さんが小学生時代に描いていた原画の精巧さです。

「手塚治虫自伝」で子どものころから漫画を描いて周りの子どもたちに見せていたと読んではいましたが、天才はやはり違う！と思わずにはられませんでした。

最近ジェンダー視点で「リボンの騎士」があげられ男装の麗人が論じられていますが手塚さんは幼少の頃、宝塚歌劇ファンのお母さんに連れられて、あの独特の宝塚歌劇の世界を繰り返し体験されたことが、作品のベースにあるということは、この記念館と宝塚大劇場との立地関係を見て深く納得しました。

「宝塚大劇場と手塚記念館」は町の背骨で、町のあちこちにモニュメントや標識として使われていて、単純に観光利用しているのではなく、この町の文化として、町の皆さんの誇れる宝物として大切にされていることを強く感じました。

いまや、子どもの読み物の漫画ではなく、アニメ文化として年齢・性別・人種を超えて世界を席卷している日本のアニメの原点に触れられたことは記憶に残る貴重な時間でした。





## 中川市長とお会いして

中島 みち子

なんと気張りのない素敵なお方！これが私たち研修メンバーに共通する感想でした。ご多忙の中、これまで何の関りもない私たちの訪問を快く受け入れ、ニコニコ優しい母の笑顔で待っていて下さり、施策を貫く骨太のいわば中川イズムを、ご自身の人生の様々なお話下さり、緊張していたメンバーを笑顔に変えられました。

ご結婚や家庭生活のユウモア溢れるエピソードは楽しくも、示唆に富んだものでした。私たちにも共有できる女性の人生の幾つかのポイントで、何を大切に選択されてきたかのいくつかのお話の中で、心無い無責任な非難に触れて「世間を捨てたの」と衝撃的なご自身の大きな決心をサラリとお話下さり、子育ての中で多くの女性が経験するであろうPTAの出来事は、私たちにもその状況がよく理解でき、中川市長の言霊にあふれるお話の重さと心意気に大きな感動と女性ならではの強さを感じて私たちも一緒に一歩前に踏み出したような錯覚を覚えました。

また、市長宛の沢山のお手紙にもしっかりと目を通され、出来るだけお会いして直接お話を聞くようにしていると伺いました。多忙の中でもひとつひとつの声に寄り添い何を施策とすべきかを研鑽されているからこそそのスローガン「すべての人が性別にとらわれず、自分らしくいきいきと暮らせるまちをめざして」の施策も成果が上がり職員も中川市長になってからの良い変化を説明できるのだと感じました。

私たちは、目指すべきお手本を手にししました。自らの諸活動に、この学びを伝えて性別にとらわれずに、希望をもって 住み続けられる目黒へ努力したいと思います。中川市長、素晴らしい時間を有難うございました。

末筆ですが、この研修を支えてくださった皆さんに感謝申し上げます。



## 働き方改革について

郡 玲 子

宝塚市給与労務課 北村係長から説明していただきました。

### 1 働き方改革の目指すものは

働き方改革は、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少と、育児や介護との両立など、働く方のニーズの多様化の課題に対応するために、働く方の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、一人ひとりがよりよい将来の展望を持つようにすることを目指しています、と厚生労働省の資料等をもとに以下、お話いただきました。

### 2 具体的な内容

#### (1) 3つの対応策

労働力の主力となる生産年齢人口（15～65歳）が、総人口の減少を上回るペースで減少しており、2060年にはピーク時の半分に減るという見込みがあるため、女性・高齢者を働き手に増やす、出生率上昇を図る、労働生産性の向上という3つの対応策が考えられるとのことです。（別紙 人口減少のグラフを参照）

#### (2) 3つの課題

対応策に対する課題は以下のとおりです。

- 長時間労働の解消：長時間労働は、少子化にもつながります。
- 非正規と正社員の格差是正：非正規労働者の待遇を引き上げる必要があります。
- 高齢者の就労促進：定年の引上げなども必要です。

（別紙 働き方改革の関係性の図を参照）

### 3 各企業や事業所が取り組むこと（働き方改革関連法に基づくもの）

- 時間外労働の上限規制を月45時間、年360時間を原則とすること。
- 年5日の年次有給休暇を確実に取得させること。
- 雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保として、基本給、賞与等について、不合理な待遇差を禁止すること。

※宝塚市ではこれらの働き方改革について、現在、制度設計を進めているところだそうです。「同一労働 同一賃金」が基本ですが、正規職員で責任が重いなどの理由で、一定程度の差は認められるとのことです。

- 月60時間を超える時間外労働の割増賃金率を50%以上とすること。

※宝塚市ではすでに実施しているとのこと。通常の時間外割増は25%（休日は35%）のところ、月60時間を超える場合は50%としています。

#### 4 宝塚市役所の状況

(1) 職員一人当たりの時間外勤務（残業）時間の状況は、

2017年度（平成29年度） 12.2時間／月（最大74.4時間／月）

2018年度（平成30年度） 11.9時間／月（最大75.5時間／月）

これには再任用職員も含まれます。また平均時間であるので、一時的に忙しい職場（選挙管理委員会など）では100時間を超える場合もあるそうです。

(2) 職員一人当たりの年次有給休暇の取得状況は、

2017年度（平成29年度） 13.2日（付与21.0日）

2018年度（平成30年度） 12.8日（付与21.0日）

なかには、5日を取れない職員もいるとのこと。

(3) 宝塚市役所の取り組み

- ① 法律による取り組みは、前述のとおり実施していますが、年次有給休暇の取得については、11月末にチェックをして取得を勧めているとのこと。難しい場合は、時期を指定して休ませる場合もあるそうです。
- ② 独自の取り組みとしては、主に、以下の内容を実施しているそうです。
  - ・ノー残業デー（毎週水・金とお盆期間）を設定し、パソコン上にポップアップ通知を表示する。
  - ・「時間外と年休みえる化システム」による実績（職員別・所属別・月別等）を公開し、自分自身で、また所属長がチェックできるようにしている。
  - ・17時以降の庁内の会議は原則禁止とする。
  - ・所属は限定されるが、4週間単位の変形労働を実施している。

#### 【質疑】

◇ 時差出勤についての取り組みはどうなっていますか。

現在、検討中です。時差出勤としては、育児中の職員の部分休業はありますが、時間短縮された分は給料が減額されます。時差出勤はすべての職場で実施できないといけないので、労働組合からは慎重にすすめるよう要望されています。また夜8時以降の時間外勤務を禁止して、その分を翌朝にまわすなどの案も出ています。

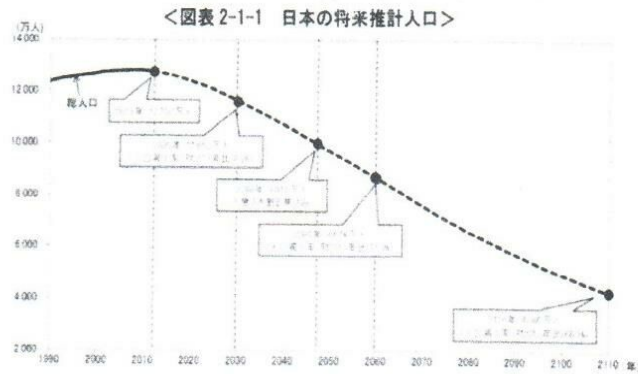
◇ 男性の育児休業の取得実績はどうですか。

2017年度（平成29年度）は女性が100%、男性が11.5%です。

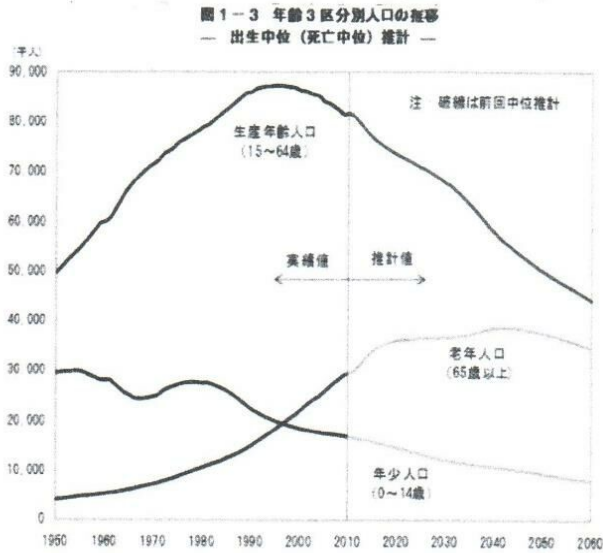
この数字は高いと思いました。目黒区の場合は、男性の取得率が2017年度（平成29年度）9.1%、2018年度（平成30年度）で10.3%です。

別紙

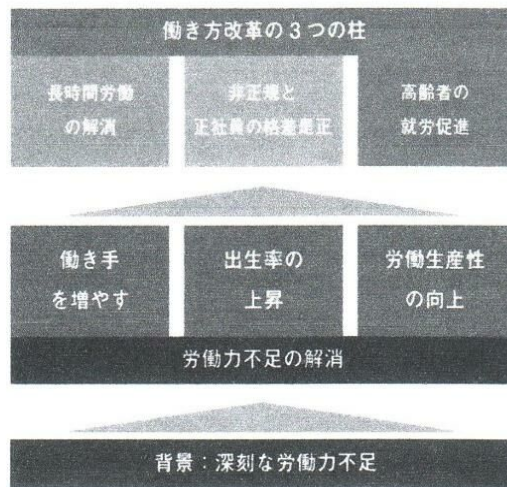
日本の将来推計人口（引用：内閣府「人口・経済・地域社会の将来像」）



年齢3区分別人口の推移（引用：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ）



働き方改革の関係性



## 宝塚市の男女共同参画施策・マイノリティの取組について

齊藤 眞澄

佐伯聡子 総務部人権平和室 人権男女共同参画課 課長  
池澤径子 総務部人権平和室 人権男女共同参画課 係長

宝塚市の男女共同参画施策・マイノリティの取組については人権男女共同参画課 佐伯課長と池澤係長から丁寧な説明と意見交換で充実したお時間を頂きました。

兵庫県では芦屋市、尼崎市、宝塚市が女性市長で、女性市長になって、女性が活躍しやすい環境づくりに力を入れ、結果、課長以上の管理職や、審議会委員、地方議員に女性の割合が向上してきている点、また各部署に男女共同参画推進リーダー制の導入により、日常レベルで働きやすさを実感できるなど有意義な効果が出ている点など、資料をもとに、うかがういました。

冊子については、「表現ガイドライン」重版や「宝塚市男女共同参画推進条例」など、一般市民向け宣伝媒体のイラスト等に素敵な工夫が忍ばせてあり、親しみやすい編集で、大変感動いたしました。

以下に概要を纏めました。

### 宝塚市の男女共同参画行政について

#### ① 宝塚市の男女共同参画行政の概要

- 1987年（昭和62） 婦人・文化課を設置、
- 1989年（平成元） 女性センター設置
- 1992年（平成4） 宝塚女性ボード設置
- 1993年（平成5） 女性センターエルを設置、
- 1994年（平成6） 総理府より 男女共同参画宣言都市の指定を受ける。
- 1999年（平成11） 男女共同参画社会基本法の施行
- 2001年（平成13） 審議会等への女性参画促進のための基準（クォータ制）実施  
40%～60%を目指す。男女共同参画推進審議会設置
- 2002年（平成14） 表現ガイドラインを策定。男女平等共同参画推進条例施行  
男女共同参画宣言都市サミット in 宝塚開催（全国にアピール）
- 2004年（平成16） 公文書等の不必要な「性別記載欄削除」の取組開始  
（性同一性障害への配慮）
- 2007年（平成19） 男女共同参画センターの指定管理者制度実施
- 2009年（平成21） 庁内における男女共同参画推進リーダー設置  
（部署ごとにリーダーをおく）
- 2010年（平成22） DV対策基本計画（配偶者からの暴力対策基本計画）策定

2014年（平成26） 全国男女共同参画宣言都市サミット開催  
（宝塚市制60周年・宝塚歌劇生誕100周年・手塚治虫記念館20周年を祝う）

② 「男女の表現について一緒に考えてみませんか。」

～男女共同参画の視点に立った表現ガイドライン～

10ページからなるこの小冊子は親しみやすい楽しいイラストを多用して、男女共同参画について理解を深めるために制作されています。

性別による役割や、生き方の固定化、性別で優劣を決めつけない配慮、平等な視点、また人目を引くために女性を使った若さや性的側面に重点をおいたポスターの排除を意図しています。

従来のアタリマエとされていることを、ホント？と問い直すことや、言葉が持つ男性優先、女性であることを強調する表現、古くからの観念にとらわれた表現、性別欄の排除【女・男・（ ）、性別（ ）】等。

大変具体的で簡潔な表現に、感動いたしました。

③ 「ありのままに自分らしく生きられるまち宝塚

性的マイノリティに寄り添うまちづくりの取組

左利きの人と同じ割合でLGBTの人たちがいます。そのことを知っても他言しないで認めてほしい。また自殺率も高い。性の多様性を理解し誰もが生きやすい社会をめざして取組を進めたいとお話ししてくださいました。

④ 市町の男女共同参画の取組状況について

今後の目標は、課長以上の女性管理職30%を目指します。審議会や、管理職に女性の割合を増やしてきておりますが、育児中の女性はなかなか難しいケースがあります。緊急時に子どもをおいて職場に駆けつけられない、ということから管理職を辞退する女性職員もいます。ただし、一旦課長になった場合、自ら降格する女性はいませんでした。男性が管理職をやめるケースは、部下の仕事の面倒を見すぎて本来の自分の仕事が出来ずに、つぶれていくパターンがありました。

忌憚のない意見交換があり、私たちからも女性職員活躍への応援の言葉をかけました。



## 「宝塚市立男女共同参画センター・エル」の取組みについて

鷺尾 不二子

宝塚市立男女共同参画センター・エル指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西 田上時子理事長

研修最終日、宝塚市立男女共同参画センター・エルの指定管理者「NPO法人女性と子どものエンパワメント関西」の田上時子理事長からお話を伺いました。頂いた資料にはセンターの愛称“エル”の名付けは市民公募によって名付けられたものと記されていました。愛称に込められた市民の皆さんの男女共同共参画社会への関心の高さを感じました。

\*愛称の“エル”は5つの頭文字をとったものです。

「Link(つながる)」「Live(生きる)」「Learn(学ぶ)」「Labour(労働)」「Liberty(自由)」

### センター・エルの運営について

自己紹介を通して（田上理事長の人生の歩みと共に）センター・エルの運営に関わようになったいきさつとセンター・エルの事業運営について伺いました。

田上理事長は、早稲田大学卒業後カナダのバンクーバーにあるテレビ局に勤務(1970～1980年代)、その当時報道されていた児童虐待に深く関心を寄せ、ライフワークととらえて専門的な勉強を深められました。帰国直後に「東京埼玉幼児連続殺人事件」に係られ日本のマスコミの取材の仕方に疑問を持ちアメリカの本「わたしの体」を翻訳出版。

### 2007年 男女共同参画センターの指定管理者制度（指定期間5年）実施

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西が指定管理者に。

指定管理者制度では、どこが運営するかの見極めが重要になります。

指定管理者は専門性が必要・市民の代表という立場で運営。

### 市民活動支援事業

エル・フェスタ センターフェスティバル

- ・人形劇 ・絵本の読み聞かせ ・夏休み作って遊ぼう！
- ・雑巾ちくちく縫い ・フリーマーケットなど

### 情報事業

- ・情報リテラシー講座 年3回
- ・啓発情報誌「エル・コンパス」年3回
- ・メール・マガジン「エル・マガ」月2回

## 相談事業

### 女性のための相談室

- ・電話相談 ・起業相談 ・法律相談 ・チャレンジ相談

(相談の年間合計は 1200 件を超えている)

○女性のための相談室では女性の問題を解決するための拠点として問題解決にとことん付き合うことを由としているとのことです。

(件数としては電話相談が最も多い)

## 学習・啓発事業

### 男女共同参画基礎講座

- ・女性セミナー ・男性セミナー
- ・エンパワメント講座 ・こころとからだのリフレッシュセミナー
- ・親子育ちセミナー (新1・2年生のためのCAPワークショップ)
- ・3歳からのCAPワークショップ

○3歳からのCAPワークショップとは就学まえの子どもを対象に、暴力から身を守るためのスキルを人形劇などを通して楽しく学びます。大人は子どもワークショップの内容や子どもを援助するための方法を学びます。今年度からは3・4年生にも拡大して実施されます。

- ・スター・ペアレンティング講座

～たたかず☆甘やかさず☆子育てする方法～

○親子間、子ども同士で起こる問題解決のプログラムです。

子どもの気質やその時の状況に応じて対応する方法を学びます。

## 市民力開発講座

- ・「私たちのエンディングを考える」連続5回

- ① オリエンテーション私たちの“エンディング”を考えるとは
- ② 一日一日を丁寧に『暮らす』～看取りの文化を地域に～
- ③ 住み慣れた宝塚市で過ごすということ  
～認知症になっても、終末期でも～
- ④ 最後まで自宅で過ごすために ～薬剤師の新しい試み～
- ⑤ “死”の意味とは 「死生学を通して」まとめ

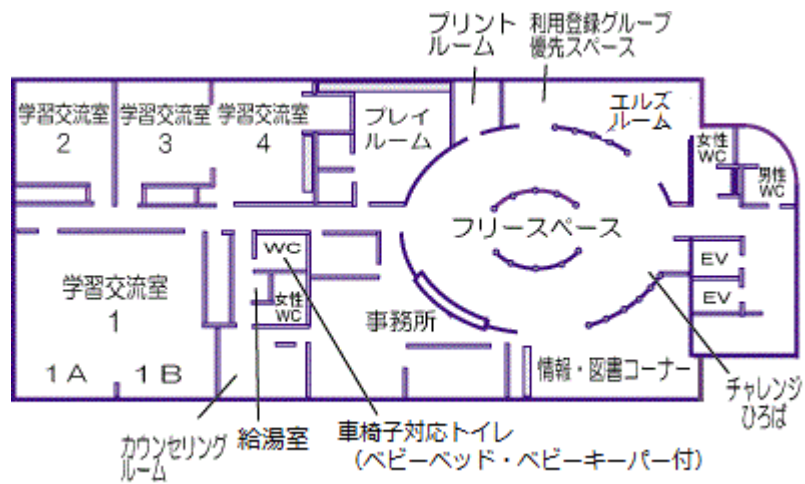
私たちのエンディングを考える

○この講座は7年続けていますが、男性は看取ってもらえる、女性は看取らなくてはならないという意識があります。このような意識の底には生まれた時からのジェンダーが絡まっているためです。

\* 13年センターの指定管理者として全力投球してきたが、現在でも性暴力は減っていません、と重い現実を直視されていました。

施設の写真と平面図

施設はワンフロアで見通しがよく、利用しやすい間取りになっていました。高校生が大勢学習していました。午前中は、親子の利用が多いと伺いました。



## 宝塚市での研修を終えて

中島みち子

7月16日、女性団体連絡会の定例会で顔合わせ、19年度の研修チーム発足からちょうど3か月目の10月16日、2019年の国内研修は無事終了しました。

出発直前の10月12日には台風19号が伊豆に上陸、関東から東北地方まで大雨を降らせ、広大な地域の川が氾濫して、各地これまで経験したことのない大災害となり交通機関にも大きな影響があるので、順調に行けるか心配な状況でしたが、15日8時には集合場所の品川駅・新幹線乗車ホームにはこれまで何度も集まって準備活動をしてすっかり仲良しになったメンバーが揃い、研修旅の幕が上がりました。

宝塚到着後、最初のプログラムの「宝塚男女共同参画センター連絡協議会」との交流では、どのような自己紹介をしようかとみんなでそれぞれの活動をコンパクトに魅力的に紹介できるか工夫しました。この作業は解っている筈の自らの活動の認識を深めることとなりましたので、今後につながるものと思います。

短期間でしたが、皆がそれぞれの役割を担い合い、協力し合い和気藹藹で初めての町を楽しみ学び合う機会は貴重な時間でした。

宝塚の街並みは、宝塚劇場・手塚治虫記念館を軸とする観光地なので、建物がこれを基調とした景観になっていて、街を包んでいる六甲山の緑とマッチして、心地いい景色でした。（電柱も地中化されていました。）

今回、研修地を宝塚に挙げた理由は、ジェンダー平等指数の低さの要因に政治分野での女性の参画の低さがあげられる中、女性市長として長く活躍されている中川市長と宝塚市民とのまちづくりと、成果を上げているジェンダー平等施策や働き方改革など、目黒区の「男女が平等に共同参画する社会づくり」を更に進めるためのヒントがきっとあると考えたからにほかなりません。

一見、目黒と違いがあるようには見えない施策も実績の数値が異なっていました。施策の達成のため、工夫をして次のステップを目指していることを学ばせていただきました。人口減少があってもより良い未来を切り開くために、私たちも今回の学びを生かして、行政と共に努力を続けてゆきたいと思います。

ご多忙の中、私たちを快く迎えて下さった宝塚の皆様本当にありがとうございました。

## 美しい自然に囲まれた宝塚市は、人への優しさを願う街でもありました

五十嵐 貴志子

政治改革、社会改革の先頭を走っておられる中川智子市長のリーダーシップのもと、働き方改革や、LGBT 施策にも積極的に取り組んでいる宝塚市を訪ねる研修に参加させていただきました。

参加メンバーの顔合わせから話し合いを重ね、準備が整う頃にはメンバーの日ごろの活動も理解し合い良い仲間となりました。

連絡協議会との交流会では、活動内容始め女性市長ならではの工夫などを伺いました。連絡会への参加グループ数などは目黒の状況とも重なり、担い手不足はいつでも同じと感じました。事務所がセンター・エル内にあるのは宝塚市ならではと羨ましく思いました。

中川智子市長にお会いできたのは素晴らしい経験でした。市長は生きる姿勢に始まり、政治に関わるきっかけや市政への取り組み方まで熱心にお話してくださいました。ざっくばらんで暖かいお人柄に魅せられ、市政への真摯な取り組みに感銘を受けました。

市の男女共同参画行政や、働き方改革、LGBT の取り組み方には、施策遂行の具体的な試みがなされていました（女性議員を増やすためのクォーター制の導入、残業を減らすために働き方改革のリーダーを作る、男性職員の育児休業を促す取り組みなど）。具体的な試みの大切さを知りました。

センター・エルの運営は「NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西」が指定管理者となり今年が 3 期目。理事長の田上時子さんは設立前から関わっておられ、確固としたジェンダーの視点が施設の設計や運営に見られました。施設では入ってすぐの広いフリースペースや親子で過ごす部屋の設置に、連続講座やイベントには市民の意識改革や若い世代との交流を目指す工夫がなされていました。

宝塚市は保守的な岩盤が厚い土地と伺いました。その宝塚市が女性市長のもと、さまざまな改革を進められるのは、市民との接触を絶やさないと言われる市長を支持する市民が存在し、市民の意識改革を目指すセンター・エルの息の長い取り組みがあつてのことと感じます。

一方で高齢化が進む社会で活動の担い手不足や若い世代との交流が難しいのは宝塚市も同じとお聞きし、地道な努力を重ねる以外に方法はないと実感しました。

国内研修への参加をよい機会として、活動は楽しみながら、をモットーに日ごろの活動に取り組んでいきたいと考えています。

## 男女平等・共同参画の貴重な実践にふれて

郡 玲 子

今年、目黒女性団体連絡会の国内研修のメンバーとなり、女性市長のもとで男女共同参画、性的マイノリティへの施策などがどのように進められているかを、現地の宝塚市に赴いて研修できることを大変うれしく思っていました。

当日は天気にも恵まれましたが、前日までの台風被害に皆、心痛めつつの旅路になりました。行く先々で、台風は大変でしたね、被害は大丈夫でしたか、とお声をかけていただき、ありがたく思いました。

最初に訪れた宝塚市立男女共同参画センター・エルは、阪急宝塚駅に隣接するビルの4階にあり、大変立地に恵まれていると思えました。センター運営協議会の役員の方々との交流は、同じ共通する思いで活動している者同士、終始なごやかに話がすすみました。後継者の問題は同様に抱えているようですが、自分たちが楽しむことを通して企画を成功させようと工夫し取り組んでいることに力づけられました。また、終了後、お二人の方が手塚治虫記念館まで道案内くださり、宝塚劇場の横の「花のみち」を通りながら、いろいろと説明いただいたことも楽しい思い出となりました。

中川市長の表敬訪問では、いろいろな経験を気さくにお話いただき、まだまだ女性が少ない政治や行政の世界で孤軍奮闘しつつ、「男女はバランスが必要」との信念のもと着実に住民に寄り添った施策をすすめてこられたことに大変感銘を受けました。

二日目は、市役所において、働き方改革、男女共同参画施策・性的マイノリティ施策についてお話を伺いました。条例や計画の内容はどの自治体も大きく違いはありませんが、宝塚市では、それを実現していくための推進力となる人権尊重の姿勢があり、啓発パンフレットなどの具体的な取り組みの一つ一つに表れていると感じました。また地方自治体の多くで職員の定数削減の流れがありますが、宝塚市では定数を増やす方向に転じていることも伺いました。住民サービスが、経験を積んだ職員により支えられていることを実感しました。

帰りがけに、宝塚市役所本庁舎が建築家の村野藤吾さんの設計であることを伺い、目黒区とのご縁を感じながら市役所を後にしました。

最後に男女共同参画センター・エルを再訪し、運営を委託されている法人の理事長から、熱い思いの詰まったお話をいただき、センターの果たすべき役割を再認識できました。今回の研修を暖かく受け入れ、時間をとってお話いただいた皆様に心より感謝いたします。





## リボンの騎士のふるさとを訪ねて

齊藤 眞澄

私たち目黒女性団体連絡会国内研修チームは、「お相撲の土俵に、なぜ、女性はダメなのか」で全国的に知られる、早くからジェンダー問題に関わり積極的に行政に活かしてこられた中川智子市長にお会いし、多くを学ばせていただきたいと期待いっぱいでした。

事前研修として、勉強会(講師香川知子課長/LGBT:性的マイノリティとは?)、TAMA 女性センター見学会(多摩市女と男の平等参画を推進する条例等)など、参加しました。また個人的には普段なじみの少ないカタカナ言葉(トランスジェンダー、LGBT、マイノリティ、クォータ制等)を再度整理して、この研修が今後の地域活動に活かせるようにと、緊張して出発しました。

宝塚市は、職員の名刺に印刷されている、「夢を探しに宝塚」、その言葉がぴったりの、宝塚歌劇発祥の地であり、漫画家手塚治虫記念館などで大変有名な文化都市です。

1995年1月17日未明の阪神淡路大震災時は震度7。大変な被災地だったと思いますが、現在は宝塚大劇場の建築物と色調をそろえた美しい街並みや、武庫川からの心地良い風に吹かれての宝来橋(S字橋)散策などに、そのころの面影はありませんでした。

宝塚市長表敬訪問、男女共同参画センター連絡協議会や、男女共同参画センター・エル見学と指定管理者、さらに本庁舎の人権男女共同参画課の職員から、様々なお話を伺いました。皆さまが個人の暮らしを大切にしつつ、行政の課題解決に長年、真摯に向かわれ、貢献されていることに、深く感動いたしました。

帰宅後、報告書を作成の過程で、参加のメンバーとの振り返りや、互いの原稿の読み合わせ、又私自身の中に深く刷り込まれたジェンダー問題(社会的性差別意識)への気づきなど、もう一度全体をかみしめ直しました。それらのことも大変有意義で楽しい時間でした。

今回の研修が、私たちにとりましても、引き続き地域での活動の勇気や希望を育む糧となることと信じます。最後に大勢のご協力くださった皆さまに心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

## 国内研修に参加して

鷺尾 不二子

台風 19 号の水害の様子が報じられていました。東京は曇り空でしたが、研修に出発しました。宝塚到着時には青空が広がり、J R の宝塚駅と、宝塚歌劇のモニュメントがある阪急宝塚駅前が賑やかでした。

この研修の前に、目黒女性団体連絡会の学習会にも参加させていただいて「L G B T の現状と区の取り組みについて」お話を聞いてから、今まで聞き流していた事柄に関心が行くようになり、図書館でL G B T の当事者が書いた本も手にとるようになりました。それまでは、サポートを必要とする子どもたちに係る仕事をしていたので、その方面の本や出来事を見聞きしてきました。今回は宝塚市の男女共同参画・マイノリティ施策や男女参画センター・エルの活動から社会的にサポートが必要な個人が大切にされ、地域社会で暮らしていくための手立てを学びたいと思いました。

最初に、宝塚駅から 2~3 分のビルの 4 階にある宝塚市立男女共同参画センター・エルに向かいました。4 階入り口まで出迎えてくださった方々が笑顔で対応してくださり、緊張がほぐれました。案内いただいて会議室に向かう途中の円形のホールは明るく居心地がよさそうな空間でした。

研修最終日には男女共同参画センター・エルの指定管理者、「女性と子どものエンパワメント関西」田上時子理事長より、「宝塚市立男女共同参画センター・エル」の活動と事業についてお話を伺いました。

子どもの問題とジェンダーの問題について 31 年間取り組んでおられるエキスパートのお話は重みを感じました。

講座の中に心魅かれる講座がありました。3 歳からの C A P ワークショップです。この講座の趣旨、暴力から身を守るための考え方やスキルを、人形劇などを通して、楽しく安心しながら学ぶ。大人には子どもワークショップの内容や子どもを援助するために大人が学ぶ。とあり、子どもと一緒に大人も学ぶ事により子どもを個人として対応し働きかける糸口をつかめるのではないかと思います。

3 歳から 4 歳頃には、生活の基本が身についていきます。このような育ちの時に、大人の言葉かけや援助はどうあったら良いのかを学ぶ機会となり、日常生活の中で実践できれば子どもと大人のかかわりが豊かになるように感じました。

私ももっと学ぶチャンスを見つけてもう少し理解を深め、今後の活動の中で伝えていきたいと思いました。最後に、宝塚市の研修で出会った皆さんの笑顔が素敵でした。様々のご配慮ありがとうございました。



上：市長表敬訪問 左手前/中川智子市長 /7P



上：市長表敬訪問 中央/中川市長/7P



上：手塚治虫記念館前 /6P



左・右：宝塚男女共同参画センター連絡協議会との活動交流会 /5P



左・右：宝塚市働き方の取組 懇談 /8P



左：宝塚市の男女共同参画・マイノリティ施策  
人権平和室長を囲んで /11P



右：宝塚市立男女共同参画センター・エル見学  
中央/田上時子理事長 /13P

男女の表現について  
いっしょに考えてみませんか  
～男女共同参画の視点に立った表現ガイドライン～



宝塚市  
2019年3月

目黒女性団体連絡会国内研修 2019

2019年（令和元年）12月発行

発行&編集：目黒女性団体連絡会国内研修

代表者：中島みち子